

## よりよい英文読解を目指して パラグラフリーディング

2004年7月18日 安倍富士男

以下の参考資料を基にして書きました。論文ではなく生徒の指導用であるため、引用や注はつけていません。(生徒の皆さんもぜひ読んで下さい。特に1は面白いです。)

- 1 理科系の作文技術(木下是雄 中公新書 1981年)
- 2 理科系のための英文作法(杉原厚吉 中公新書)
- 3 新しい英文読解法(岩波ジュニア新書 天満美智子1994年)
- 4 新しい英文作成法(岩波ジュニア新書 天満美智子1998年)
- 5 英語で書いてみよう(岩波ジュニア新書 大津幸一 1997年)
- 6 英詩理解の基礎知識(志子田光雄 金星堂 1980年)

### A 用語解説

#### A1 パラグラフ(paragraph) 天満1994より引用

この語のとは、para(そば、近く)とgraph(書く)が一緒になって、余白などに書く短評や小記事といった意味で、そこから、簡潔で、明確な一区切りの文章をさすようになったものと思われます。

ここで注意したいことは、それぞれのパラグラフで書き手は何を言おうとしているのか、そのポイントが明確に記されていることです。つまり、1つのパラグラフには必ず1つの主題(main idea)があり、それを述べる主題文(topic sentence)があるのです。これが非常に重要です。後に続くいくつかの分は、その主題文を支え、説明し、補強するいわば、副次的な文(supporting detail)でしかないので、したがって、1つのパラグラフの主題文がどれで、何を主張しているのかがわかれば、そのパラグラフ全体がほぼ理解できたといっても言い過ぎではありません。パラグラフのセンテンスを1文ずつ和訳して、それをつなぎ合わせるのではなく、まずパラグラフ全体に目を通して、どれが主題文であるかを知ることが何よりも大切なのです。

整理すると、

パラグラフ paragraph	2から3文字下げてまとまりをつけた文章のブロック。 その中で筆者の言いたいことはたった1つ。それを主題(main idea)と言う。
主題 main idea	パラグラフの中で筆者が言いたい考え。(文になっていなくてもよい)
主題文 topic sentence	主題を述べるための文。パラグラフにはたった1つだけ。2つあってはいけない。 2つあるときは別のパラグラフを起こすこと。
副次的な文 supporting sentences	主題文を支えるための説明、具体例列挙などの文。

そして、読解においては、ざっとパラグラフを読んで(文章の最後までを意味していない)、どれが主題文かを知ることが最重要課題とっています。

#### A2 主題文について

いろいろな人がいろいろな用語を使っているので、整理しておく。

主題文と同じ意味の言葉一覧 これらの語句は同じことを言っていると了解して差し支えないようである。

- 1 目標規定文 木下1981の新造語
- 2 thesis シーセス
- 3 key sentence キーセンテンス
- 4 topic sentence トピックセンテンス

例えば、木下1981が述べている目標規定文とは、英語のthesisに近いと言っており、シーセスの定義をコーベットから引用している。

シーセスに関するコーベットの定義

主題に関してあることを主張し、または否定しようとする意思を明示した文

さらに、木下さんは、この目標規定文をパラグラフのどこに書くかということに関して、次のように述べている。

私は、少なくとも初心者にとっては、まずこういう形に目標規定文を書き、それからのその目標に収束するように文章全体の構想を練ることが必要だと考える。

そして次のような例を挙げている。

このレポートでは、ランダムな変動を考慮に入れても、1970年代には言うてからは春が来るのが遅れ、また春が寒くなりつつあることを示す。

それに続く記述の順序に関する章で、「重点先行主義」と称して、次のように述べている。

私は、仕事の文書はすべてこういう重点先行主義で書くべきものとする。短い文書には著者抄録に相当するワクはないが、内容にぴったりの分を選び、表題か、あるいは書き出しの文を読めばその文書に述べてある最も重要なポイントがわかるように配慮すべきである。

この「重点先行主義」は、なにも木下さんの独創という訳ではなく、木下さんも著書の中で再三繰り返しているように、欧米諸国の言語教育の根幹をなすものとして、小学校から大学まで一貫して教育が徹底されている。従って、そういう書き方を長年訓練された教養のある人々が書いた文章を私たちは読むことになる訳だから、当然、トピックセンテンスはパラグラフの最初にあると考えるとよい。また私の入試問題読解の経験からも、それがピッタリ当てはまると言える。

## B 読み方

### B 1 予備的な読みを行う(スキミング スキャニング)

何について書かれた文章かをまずはじめにつかむ。すぐに一文一文に集中して読まないでできるだけ、すばやくパラグラフ全体、あるいは文章全体に目を通します。次に一文づつ集中して読んでいきます。辞書を使わないようにしましょう。

天満さんは、予備的な読みが必要な理由を次のように述べています。

なぜ、予備的な読みが必要かといいますと、さっと文章全体に目を走らせることにより、その文章の読み方をどれにするか、つまり、このはしりよみでおわってよいものか、それとも、次には精密な読みを必要とするのかを決めることができますし、また文章の方が、物語的なものか、それとも説明や論説敵なものかを大づかみに知ることができるからです。このように、これから読む文章に対する予備的な知識が、読解仮定を円滑に進めていくために、重要な役割を果たしています。

### B2 パラグラフの最初の文に最大限に集中する

論説文の場合、パラグラフの最初にある文は、筆者の最も言いたいこと(これを主題文と言う)が来ていることがほとんどなので、最初の文に集中します。

### B3 主題文は難しい抽象的なことが多い

筆者の最も言いたいことが、パラグラフの最初に来ることが多いので、どうしても抽象的で結論めいたことになりがちです。また構文も複雑になったりします。しかし、ここが肝心だと思ってがんばって読解して下さい。

### B4 内容の概略つかむ

予備的な読みを行って、何について書かれたものか、想像して下さい。環境問題、人口知能、南北問題?そしてその分野に関わる頭にして読むと内容がわかりやすくなります。これを天満さんは「スキーマを利用する」と言っています。

### B5 未知の単語を類推

予備的な読みを行っている段階で知らない単語に出会っても驚いてはいけません。何個か知らなくてもなんとかなるものです。そうでない場合もありますが、まずは予備的な読みの場合、パラグラフの最後まで読みきって下さい。

次は私のやり方です。

1. 知らない単語はまず文中で類推する。
2. 辞書を引く必要があったら辞書に当たって単語の下にまずは書き込む。
3. 読み終わってから、あとで必要となる単語かどうかを判断して、必要なら自分用の単語ノートなどに転載する。

天満 1994 は、「まったく初めて見る単語の場合でも、その単語だけが孤立してでていることはまずないと言っていいでしょう。その前後にその意味を合図する語句や分がついていることが多いのです。道の語があるときは、すぐさま辞書に手を出すのはやめて、その後の周辺をよく観察して、何か手がかりになるもの

がないか探してみることです。(pp45)」と言っています。

また最初のパラグラフの一語一語に(特に知らない単語など)に目が奪われてしまって、読解が進まない状態を word-bound(語に縛られた)と言います。試験のときは特に緊張しているので、意識的に避けてください。

### B6 図式化と数値

論説文などでは、いくつかの似た考えや相反する考えが出てきたら、それを余白を利用してメモしておきましょう。あとで設問を解くために読み返すときに役立ちます。天満 1994 もパラグラフ構造を図示しておくで「試験など、限られた時間に長文のまとめをする場合に、この(パラグラフ図示の)方法は多いに役立つと思います」と述べています。

また具体的な数値(特に大きな数字が出てきた場合ですが)余白に万国共通のアラビア数字で数値を書き込んでおきましょう。例えば、ten thousand five hundred people は「10,500 人」と書いておくと、後で比較するときなどに楽です。また読むのは苦痛で時間がかかります。センター試験では図表と対応させた「図式読み取り問題」がでますので、整理しておくで楽です。

天満 1994 は、物語文を読む場合のテクニックとして、関係図のメモをあげています。

なお、物語文などを読む際には、時の経過などを表す手がかり、例えば、once, every night, afterwards, the, at the end などの語句に注意し、また複雑なプロットの場合には、場所や人物関係を表す手がかりなどを基に、関係図をメモにするのも一案です。例えば、登場人物が多いと、次のような略図も便利でしょう。

### B7 論理の展開を追う

パラグラフごとの主題文に鉛筆で下線をつけるなどして、主題文を明確にしておきます。予備的な読みを終わった後に、この主題文だけを読むと文章の骨子が見えてきます。またパラグラフの頭には数字を入れておきます。論理の展開をしっかりと把握するためによく出るつなぎ言葉を覚えておくで非常に論理関係がはっきりしてきます。

### B8 自問自答する習慣

筆者がはっきりと主張を述べた場合に、すぐに「そんなことは、どうして言えるのか?」と考えてみたり、具体例を挙げて述べた場合や抽象的なことを言った場合には、すぐに「筆者はこのことで結局、何を言いたいのだろうか?」と自問自答してみるといいでしょう。すると、文章の論理関係がはっきりと見えてきます。

自問自答する訓練については、Critical Thinking(クリティカル シンキング 略称 CT)の手法が有効と言えます。いつか機会を見つけて「CTの手法を利用した読解」についても考察してみたいと思います。

### B9 単語増強

James Ramsay の方法(天満 1994 pp22 より 安倍訳)

新出英単語を覚えられなくて苦労することはありませんか。多くの人はこの問題を抱えています。以下の方法は、皆さんが新しい単語を記憶するのに役立つと思います。

- 1 新出単語をよく注意して眺めなさい。文字はどうなってますか、単語全体はどうなってますか。

- 2 目を閉じなさい。その単語が目には浮かんできますか？
- 3 単語の発音を聞き取りなさい。単語の中にある音に注意しなさい。
- 4 音を聞きながら、単語を見なさい。単語をじっくりと眺めなさい。
- 5 その単語を大きな声で言ってみなさい。今度は本を閉じなさい。単語を見てはいけません。
- 6 その状態で単語を言えますか。
- 7 単語を書きなさい。3回から4回書くといいでしょう。書きながら声に出して言いなさい。
- 8 その単語を実際を使ってみなさい。授業中に1回使ってみなさい。
- 9 夜、家に帰ってから一度使ってみなさい。
- 10 次の日と、翌週にを使ってみなさい。新聞でその単語を探して見なさい。テレビやラジオでその単語を探して聞きなさい。新しい単語を覚えるには、とにかく使って見ることです。

このようになっています。しかし、ここまでやったら、間違いなく覚えるでしょうね。これはあくまで英語を母国語とする英語話者のために書かれたものですから、10番などは第二言語学習にはそのまま当てはまるわけでもないようです。しかし、1から9までは外国語としての英語学習にも役に立つのではないのでしょうか。

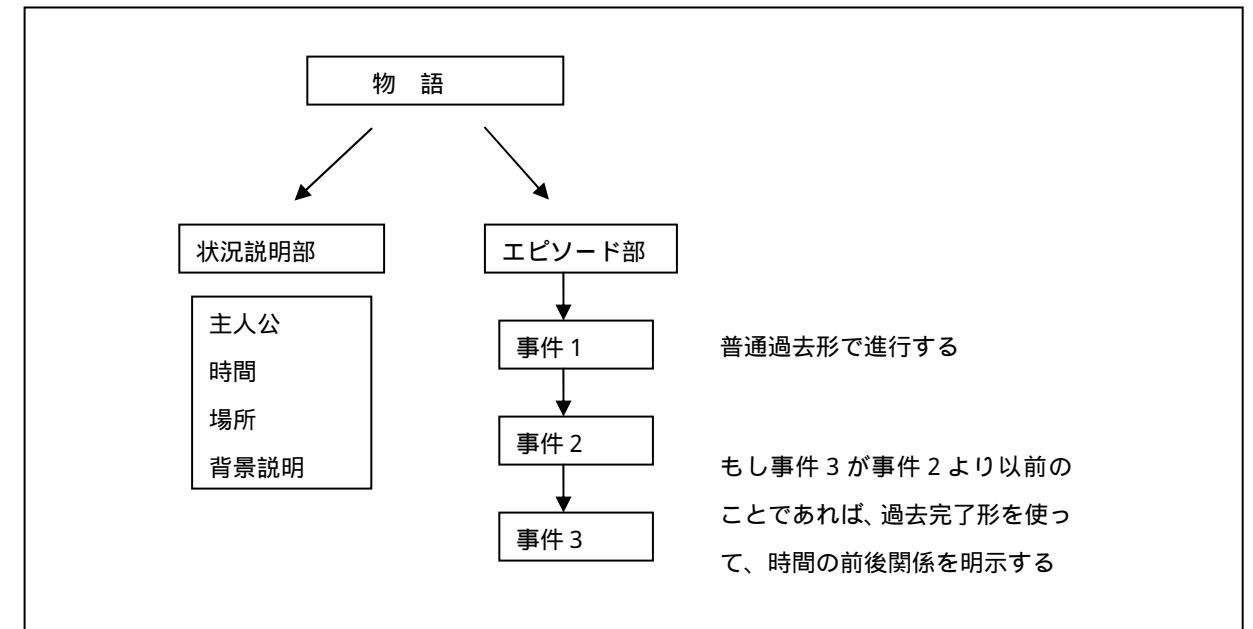
### C 文の種類を理解する

英文は機能によって、新聞記事、スピーチ、随筆などの文学作品、論説文などに分けられますが、パラグラフ展開という機能に限って見た場合、次の2つに大きくまとめることができます。

文の種類	物語文	論説文
パラグラフの特徴	時間軸でのべる	論理的にのべる
文章の種類	随筆、 心情を吐露した文学作品、 友人間の手紙など	調査報告、出張報告、 答案、レポート、 学会論文、マニュアル等 ビジネス文書
ほかの特徴	心の琴線に触れる「ウケ」を狙う 形容詞や副詞を多用する レトリックを多用する すべてを明示的に書かない 行間に意味がある	わかりやすさを狙う 主観的な形容詞や副詞は使用禁止 冷たい感じがする くどい感じがする すべてを書き尽くす 文は多義的ではない。一義的。

### C1 物語文

主要部分は、状況描写とエピソードからなっている。状況描写とは、主人公の置かれた場所、時、状態などを示します。エピソードとは、出来事の発生から、事件の反復、対抗する試み、そして最後の結末を示します。図で示すと次のようになります。



物語文のポイントをまとめると、以下のようであり、

1. 時間配列で文が並んでいることが多い。その方が、読者にとって自然に了解してもらいやすいから。
2. 従って、文法的にはほとんどが過去形を使って文が進行していくことになる。
3. 時間的に戻るときだけ過去完了を使う（過去完了形の大過去用法）

構成要素の特徴は、以下のようになる。

4. 状況説明（時間と場所の特定）
5. 主人公登場（筆者かほかの人か）
6. 文だけでなく、パラグラフは時間配列のイベント毎に区切ってあるのが普通。

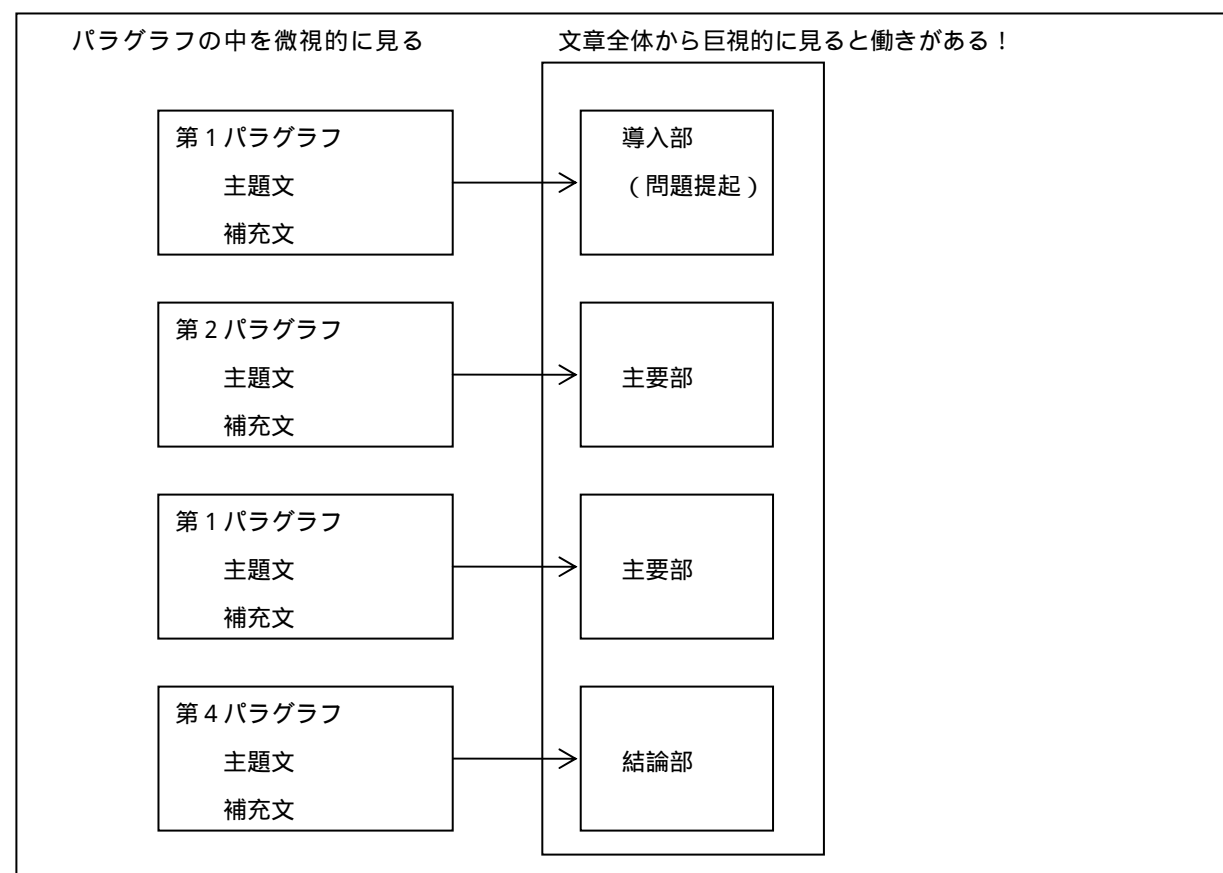
## C2 論説文

論説文の構成 (=パラグラフが2つ以上ある場合) 天満 1994 pp39 より引用

パラグラフはそれぞれ1つの主題を中心に独立したものですが、それぞれのパラグラフがばらばらに存在するのではなく、全体として大きく1つの主題でまとまり結合しているのです。それは、ちょうど単一のパラグラフに主題文と補充文があるように、複数個のパラグラフからなる文章でも、ただ1つの主題を導入するパラグラフで始まり、その主題を補充、補強するパラグラフ(それを主要部と呼びます)がいくつか続き、最後のパラグラフでまとめ(結論部と呼びます)手億のです。しかし、結論部を省くことも多いです。(途中省略)

皆さんは、この文章の構成法をよく理解しておく、英文の読解が驚くほど促進されると思います。なお、物語文では、必ずしもこのような形をとらない場合が多いので、それについては第8章で述べます。

論説文のパラグラフ構成を図示すると、次のようになります。天満 1994 を基に改変して作成。



1つ1つのパラグラフの内部もしっかりと構成されていますが、マクロ的に見るとそのパラグラフ同士も、筆者の主張を効果的に伝達するために、役割を担っているわけです。英文を読むときは「木を見て森を見ない」ことにならないように注意しよう。

## D つなぎの語句

文と文をつなぐ語句をある程度、知っていることはよりよい文章理解、パラグラフ理解のためには必要です。付録によく使われるつなぎ語句の一覧を掲載しましたから、確認して下さい。また天満 1994 では、次のように警告しています。

しかし、日本語の文章と比較しますと、英語の場合は、論理的に自明な関係には、わざわざ接続品を用いずに、できるだけ簡潔に文を連結するのが好まれるようです。この点、日本語の文章では、接続詞を多用する傾向がありますので、注意を要します。つまり、英文を読む場合、ことさらに関係を示す接続詞がなくても、頭の中でそれを補充しながら前後関係をつけて解釈することが必要です。

## E 要約文を作る

要約文とは、実際の言葉そのものではなく、基本的に重要な意味情報だけに絞っての述べることを言います。つまり、周辺的な細かいことよりも、志向の中心的な流れと基本的な事実関係に焦点を絞らなければなりません。分量は原文の3分の1程度に短縮するのが通例。しかし、あまり厳密に語数にこだわって、機械的にサマリー(要約文)を作成するのではなく、文章の概要を簡潔、明瞭に再現することが大事。

## F 要約文の作り方

- 1 文章全体をざっと通読する。(長い場合には、トピックセンテンスだけ拾い読みしてもよい。)
- 2 どこが最も重要な部分かをしっかり押さえる。つまり、文章の主題(main idea)を押さえる。
- 3 不要な部分は削除する。補充文はだいたい削除できる。
- 4 重要ではあるが、繰り返し出てきた場合には、その重複部分は削除する。
- 5 同類に属する語は総称的な語で代用する。

(例) cats, dogs, goldfish, parrots と列挙してあったら、一言 pets で済ませる。

6 微細な行動は簡潔にまとめる。  
Jon left the house and went to the station. He bought the ticket and got in the train. He arrived in London.とあったなら、一言 John went to London.とまとめる。

7 主題文が明示していない場合には、自分でそれを作る。特に、物語文においては。

## G タイトルのつけ方

タイトルは要旨をさらに牛祝詞他のもので、要旨が確立しなければ、適切なタイトルをつけることはできません。なお、タイトルを英語で書く場合、名詞の第一文字は大文字にします。(天満 1994 pp113)

(例) New England Weather

付録1 パラグラフの歴史 (A Comprehensive Dictionary of English Grammar Y.Inoue KAITAKUSHA より引用)

略語は PAR. 文章の一区分を言う。1つの文からなることもあるが、普通は2つ以上の文からなる。文節の始まりはほかの行より引っ込めて示す。この引っ込めを Indention という。各区分の長さはその中に含まれる主題の軽重によるので、長いものは数百語もあり、短いものは数語で表すこともある。

同じパラグラフは同一主題を中心とすべきである。また対話(ダイアローグ)の時、話者が変わるとにパラグラフが改められることもある。

パラグラフは、古くは符号をつけて示された。中世期の写本には赤または青の半円記号(DあるいはDの反対向き)が用いられており、今日パラグラフと呼ばれる¶の符号は Authorized Version (ただし Act20 まで)に用いられている。

付録2 パラグラフ間の論理関係を示す「つなぎ言葉」

発生順	まず最初に first, firstly, at first, in the beginning, to begin with, 次に then, later on, soon, thereupon, meanwhile, 結局 finally, in the end, eventually
同時生起	at the same time, at this moment, just then, while, simultaneously
付加	and, again, furthermore, moreover, in addition, besides, on top of
説明	that is, I mean, in other words, thus, namely
部分変更	incidentally, by the way, alternatively
関連関心	in this respect, in this regard, with reference to this, aside from this, in every part
比較	likewise, similarly, in the same way, on the other hand, by contrast, as compared with
例示	for example, for instance, to give an example for
理由・原因	for, because, since, for this reason, on account of this, because of this, owing to this
結果	so, therefore, consequently, hence, thus, as a result, this shows, this indicates, it follows, on this basis, arising out of this
反対・対照	but, however, yet, conversely, instead, nevertheless, in spite of that, despite this, oppositely, on the other hand, on the contrary, as a matter of fact, in fact
譲歩	but, however, nevertheless, still, nonetheless, notwithstanding, anyhow, at any rate, that being so
結論	conclusion, in conclusion, finally, as a conclusion, conclusively, to sum up, in a word, in short, to make a long story short

付録3 読解に必要な記号の持つ意味 Punctuation パンクチュエーション

理科系の作文技術 木下 1981 が参考になる。この著作は研究レポートを書く場合の心得を述べたものであるが、逆に言えば、記号を使う場合の書き手の意図が読み取れるので、それを逆手に取って、読解の参考にしよう。

.	ピリオド	日本語の句点(。)に相当する。文尾で用いる。
,	コンマ	日本語の読点(、)に相当する。この使われ方には注意が必要だ。 1 2つの文からできている時は、間にコンマを打つ。 2 3つ以上のものを列挙するとき使用する。 しばしば文の切れ目と誤解しやすい。 A, B and C 3 副詞句等を文頭に使用したときなど 4 同格の説明 Mr. Obara, our HR teacher, is gentle.
;	セミコロン	関係の深い対等な2つの文を接続詞を使わないで並べる場合
:	コロソ	コンマより強くセミコロンより弱い切れ目。強さは.:>:>:,の関係。 前の文に対して、説明、要約、詳細であることが多い。 「すなわち」の意味で読解するとほぼ当たる。
	ダッシュ	「すなわち」の意味で用いられることが多い。 他に「もっと具体的に言うと」の意味が多い。
“ ”	ダブル・クォーテーション	発話を文中で引用するとき用いる。 日本語の「 」に相当する。
	シングル・クォーテーション	ダブルクォーテーション中の発話を引用する場合。 日本語の『 』に相当する。